# 不登校、県内でも増加傾向

## 関係機関、さまざまな支援

## まずは学校へ相談を

さまざまな原因で学校に行けなくなる「不登校」が全国的な課題となっています。佐賀県内でも不登校の児童・生徒数は年々増加傾向にあり、佐賀県教育委員会など関係機関はさまざまな対策を実施しています。不登校の子どもを持つ保護者もさまざまな悩みを抱えており、不登校児やその保護者への適切なケアが急務となっています。

（羽根佳子、三原滋木）

しいの木の室内。児童・生徒が希望するときに来所し、学習や体験活動ができる

文部科学省は不登校を「何らかの要因・背景により登校できない状況にあり、年間30日以上欠席したもの（病気や経済的な理由を除く）」と定義しています。県内では2022年度、小学校で669人、中学校で1341人が不登校でした。児童・生徒1千人当たりの数は小学校14・9人、中学校55・6人で、全国平均よりは少ないものの年々増え続けています。

県教委は不登校について「学校を休むことは悪いことではなく、本人とっては必要な時間」とします。不登校の理由は無気力や不安感、友人関係、家族関係などさまざまですが、県教委生徒支援室の池田忠徳室長は「ここ3年ほどは、コロナ禍も大きく影響した。学校に行く必要性が感じられなくなり、自粛による孤立も増えた」と話します。また休むことで「勉強についていけない」との不安が生じ、再び学校へ行くことをためらうケースもあるといいます。

このような不登校に対し、佐賀県や市町などはさまざまな支援を実施しています。県では「保護者のための不登校対応支援ガイド」を作成し、不登校支援ネットワーク、相談できる関係機関、こころの相談窓口などを紹介しています。

このうち支援ネットワークは「チーム学校」と称し、管理職や学級担任、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどが連携して、児童・生徒一人一人の状況に応じた支援策を打ち出します。校内以外にも県や市町の関係機関とも連携することで、子どもの利益を最優先にした支援が可能となり、「登校を嫌がったりしたらまずは学校に相談して」と言います。

佐賀県教育支援センター「しいの木」

学校以外の居場所としては、県教育センター「しいの木」や各市町が設置する教育センター、フリースクールがあります。これらの施設では、児童・生徒の状況に合わせた学習支援や体験活動など行っており、学校への復帰や社会的自立に向けたきっかけづくりとなっています。

これらの施設に出向くことが難しい場合、認定NPO法人による訪問支援もあります。訪問支援員が自宅に訪れ、カウンセリングや学習支援をするほか、希望者はICTを活用した学習支援も受けられます。県の担当者は「悩みを抱え込まず、学校や関係機関などに相談する事で不安な気持ちがやわらぎ、お子さんの支援につながります」と呼び掛けています。

保護者のための不登校対応支援ガイドのQRコードです。読み込んでご覧ください。

## 不登校児の保護者の話

不登校は児童・生徒自身はもちろん、保護者も心を痛めます。お子さんの不登校に悩んだ経験がある保護者の話を聞きました。

（平野安希、中原賢智）

### 抱え込まずに話して

Kさん（伊西地区）

娘が不登校になったのは小学校6年生の時です。授業妨害をしていた男の子たちを注意したことがきっかけでした。注意したその日から嫌がらせが始まり、学校に行けなくなりました。娘は学校で勉強したいけど行けない状態だったので、早起きして勉強したり、散歩したり、家に閉じこもる事がなかったのは良かったです。

中学では心機一転で頑張ろうとしたものの、入学直後の学級崩壊により再び学校に行けない日が続きました。そして親子で話し合い、生徒数の少ない学校への転校を決めました。転校して1年後、再び休みがちになりましたが、担任の先生が「今、どうしても会いに行かないといけない気がする」と言って娘に会いに来てくれました。おかげで娘は先生に心を開くことができ、学校に行けるようになりました。本当に感謝しています。

不登校で悩まれている方はとにかく子どもと話し、触れ合ってほしいと思います。そして、抱え込まずに誰かに話してほしいです。また学校と家庭の連携は大事だと思います。

### 向き合い、寄り添うこと

Hさん（杵藤地区）

小学6年生と3年生の子どもがいますが、2人とも以前、不登校でした。今は学校には行ってますが、教室に入ることはできていません。

上の子は新型コロナによる休校の後、まったく行けなくなりました。最初は引きずってでも学校に連れて行ってましたが、親としても苦しかったです。

下の子は2年の10月ごろから行っていません。はっきりした理由は分かりませんが、先生が宿題を忘れた子にものすごく怒鳴っていたことが怖くてトラウマになったようです。

その後、「無理して行かなくてもいいか」と考え始めると気が楽になり、子どもたちが「学校に行かない」と言っても受け入れられるようになりました。現在は支援団体の支えを受けながら週2回、通学できています。

子どもの将来に対する不安は親なら誰しも持っていると思います。ただ人生はどうなるか分かりませんので、子どものその時の状況に合わせて、1人の人間として向き合い、寄り添ってあげる事が大切だと思います。

佐賀県PTA新聞

発行所
佐賀市南佐賀3-11-15
佐賀県立佐賀東高等学校内
佐賀県PTA連合会
☎0952(26)2276

発行責任者
会長 江田 明弘

佐賀県PTA連合会ホームページ
http://www.saga-pta.jp/

子育て応援メッセージ

- ❤つながろう！ 元気にあいさつ 笑顔でね
- ❤育もう！ 食卓でつくる 家族の絆
- ❤受けとめよう！ 子どもの心 メッセージ
- ❤伝えよう！ 感謝の気持ち ありがとう
- ❤見守ろう！ 地域ぐるみで 輪になって
- ❤話し合おう！ ルールを守って 情報モラル

35年の信頼と実績
丸田塾 maruta
5日間 春期講習 小2～中3 体験価格 2,500円（教材費・消費税込）
13名全員が教職現場での経験豊富な正社員講師です
2023年 中学受験 合格実績
致遠館中 28名 中学受験に実績あり！
小2～高3 目標に応じた各コース
全教科指導 部活や習い事との両立もできます
英検・漢検・数検の受験もできます
オンライン英会話
お問い合わせは各教室まで！
◆兵庫本部教室 ◆佐賀駅前教室
◆城北教室 ◆大和教室
◆新栄教室 ◆鳥栖教室
◆小城三日月教室
丸田塾HP

## 佐賀市でリーダー研修会
# PTA活動の見識深める

佐賀県PTA連合会の「市郡連リーダー研修会」が1月20日、佐賀市のアルカディアSAGAで開かれました。県内の単位PTAの代表ら約200人が、江田明弘・佐賀県PTA連合会会長の講演やパネルディスカッションを通じ、PTA活動の本質などについて見識を深めました。

会の前半では、江田会長が「そもそもPTAとは」の演題で講演しました。江田会長はこれまでの活動を通じて感じた〝PTAあるある〟や子育てにおいての体験を交えながら、PTA活動の在り方や存在意義などを説明。参加者の笑いをとりながら「会員の当事者意識を醸成することが大切」などと呼び掛けました。

パネルディスカッションでは、牛丸和人・西九州短大幼児保育学科教授がコーディネーターを務め、パネリストとして古川裕紀県議、山本由子・弘堂国際学園理事長、江田会長の3人が登壇。「本音で語ろうPTA」をメインテーマに、LGBTへの対応、子どもの褒め方、学校と家庭の役割分担などについて幅広く意見を交わしました。

（陣内さおり）

さまざまな意見を交わしたパネルディスカッション

議論に聞き入る参加者

## 講演

佐賀県PTA連合会会長・
日本PTA全国協議会参与
**江田明弘 氏**

【演題】
### そもそもPTAとは

私の座右の銘は「前人樹を植えて後人涼を得」という言葉です。これは「組織の存在意義は営利・非営利に関わらず社会の役に立つことである」という意味合いです。PTAの設立から75年を迎えた今、PTA組織の目的・目標・手段について、みなさんに改めて考えてみてほしいと思います。

子育てにおいての「目的」は、子どもたちの経済的・社会的・精神的な自立であり、これらは家庭の中だけでは学ぶことができません。人との関わりの大切さを知る上で、家庭・学校・地域という3者の連携が大変重要です。

子育てにおいて「安心と安全」とはどういうものだと思いますか？

海外ではスクールバス通学が主流で、日本では子どもたちだけで歩いて通学しています。スクールバスではなく子どもたちだけで通学できるのは、PTAと地域住民による長年にわたる見守り活動によるところが大きいです。PTA活動には派手さがなく、成果というものを実感しにくいですが、子どもたちが過ごしている安心の日常、その一翼を担っているのがPTAではないかと思います。

### 当事者意識の醸成を

3者それぞれが連携し、社会全体を良くすることに努めることが、結果的に子どもたちの健やかな成長に繋がっていきます。それこそがPTAの本当の目的です。

社会教育とは人づくり・地域づくり・絆づくりであり、地域の問題を我が事のように思って当事者意識を醸成することです。PTA活動においても、当事者意識を醸成していくことが大切なんだという意識で臨んでほしいと思います、

近年は教育現場が疲弊しています。佐賀県PTA連合会は「子どもたちのための働き方改革」を決議し、学校や地域と連携しながら先生たちを支えていきたいと考えています。皆さまも積極的な協力をお願いします。

（再録・木下 真）

## 県教委と連携・協力会議
# 働き方改革など意見交わす

佐賀県教育委員会と佐賀県PTA連合会の連携・協力会議が昨年11月15日、佐賀市のホテルニューオータニ佐賀で開かれました。県教委から甲斐直美教育長をはじめ、学校教育課や教職員課、保健体育課などの職員ら24人が出席し、県P役員と意見を交わしました。

会の冒頭では、江田明弘県P会長が「この会を有意義なものにして、学校の力となる活動にしっかり取り組みたい」とあいさつ。甲斐教育長が「思いを共有しながら会をいい形にしていきたい」と述べました。

意見交換は「学校の働き方改革について」と「不登校対策について」の2テーマで実施しました。

働き方改革では「PTA行事の精選など大切だが、学校とPTAの関係が良ければうまくいく」などの意見が出されたほか、「しつけなど本来PTAの役割であることを学校が肩代わりしている」との指摘もありました。不登校対策では県教委の担当者が県内の現状や実施中の支援策などを紹介しました。

また、佐賀北高校通信制校舎内に来春開校する夜間中学「県立彩志学舎中学校」や、県が取り組みを進める部活動改革「SAGA部活」の進捗状況についての説明もありました。

（瀬戸健太郎）

教職員の働き方改革などで意見を交わした県教委と県P連の連携・協力会議

# 教育課題などで意見交換

佐賀県PTA連合会（県P）・佐賀県高等学校PTA連合会（高P）と佐賀県退職校長会との教育懇談会が1月17日、佐賀市のグランデはがくれで開かれました。3団体合わせて約20人が出席し、県内の教育課題や今後の活動などについて意見を交わしました。

同懇談会はコロナ禍の影響でしばらく中断されており、4年ぶりの開催となりました。会の前半は、県教育委員会学校教育課の藤田浩巳・指導主幹が「学校・PTA・地域等総がかりで取り組むSDGsの活動例や留意点について」の演題で講話を行いました。

藤田主幹は県内の学校におけるSDGsの取り組みとして、唐津市の東唐津小で実施されている海ごみを減らすことについて考える授業や、伊万里市の牧島小で実施されているカブトガニの飼育と放流などを紹介。「従来の体験活動をSDGsの視点で見つめ直してもいい。そのことで子どもたちが『自分たちにも何かできるのではないか』『社会を変えられるのではないか』と思ってくれれば」などと話しました。

## 退職校長会と教育懇談会

後半の3団体による意見交換会では、県Pが昨年10月に開催した「九州ブロックPTA研究大会」の成功などを報告。高Pは県立大学設立を挙げ、「優秀な子どもを育てるのなら、その子たちが働ける場もつくってほしい」などと提案しました。退職校長会からは退職した校長先生たちによる「人材バンク」の取り組みが紹介されました。

（平野安希）

約20人が出席した県P・高Pと県退職校長会との教育懇談会

# 市郡連会長に聞く

県内に13ある市・郡・地区PTAの会長を順番に紹介します。それぞれの地区の自慢や課題、今後の展望について語ってもらいます。

第19回

西松浦郡地区 廣 知徳会長

**ひろ・とものり**

中学１年の長女、小学５年の次女、小学３年生の長男の３人の子育てに奮闘する傍ら、地域の活動に積極的に取り組む。趣味はマラソンで週３回、西有田陸上クラブの監督を務める。仕事は知的障害者施設の職員。所属単Ｐは西有田中。49歳。

## 生涯通して子どもの支えに

**◆西松浦郡ＰＴＡで力を入れて取り組んでいることを教えてください。**

先生方の働き方改革については、ＰＴＡの関わり方を見直し、子どもたちの教育環境を整えたいと考えています。例えば、先生方の時間外労働の削減を考慮した登校時間の調整や、登校時の見守りをＰＴＡが担うなどの取り組みを行っています。近年の働き方の多様化や様々な家庭環境の中で、単Ｐの役員さんが安心して参加できる体制を整えたいと考えています。

**◆西松浦郡ＰＴＡの好きなところはどこですか？**

郡Ｐは６校で構成しています。顔見知りも多く、皆さんさまざまな趣味や活動をされているため、ワクワクするような話が聞けて楽しいです。また自分たちの子ども時代を振り返りながら、次の世代につなげていくことができることはいいところかなと思っています。

**◆子どもと行けるおいしい店を紹介してください。**

近所の「唐船ドライブイン」には、親類や友達が集まる時によく頼んでいます。我が家の人気は チキン南蛮と皿うどん、チャーハンです。他のメニューもおいしく、ボリュームもありますが、毎回頼み過ぎてお腹いっぱいになってます。

**◆次世代の役員さんへ伝えたいことはありますか？**

私も分からないことが多いですが、日ごろ地域で自分が動いていることがＰＴＡ活動につながっていると感じます。ＰＴＡは常に地域の中にあると思っています。ＰＴＡを卒業されたとしても、地域の一員として活動に関心を持ち、何らかの形でＰＴＡを支えるという視点を継続的に持ってほしいです。地域の一員として生涯を通して子どもたちの支援に関わることができる社会を望んでいます。

（聞き手・藤丸卓也）

第59回 新春読書感想文コンクール

# 県P会長賞に５人

第59回新春読書感想文コンクール（佐賀県立図書館、佐賀県学校図書館教育研究会、佐賀新聞社など主催）の審査会が１月26日、佐賀市の佐賀新聞社で開かれました。最高賞の知事賞には６人が輝き、佐賀県ＰＴＡ連合会長賞は５人が選ばれました。

コンクールには小学校低学年から一般まで約１万８千点の応募があり、県内の教諭らが審査しました。

**県ＰＴＡ連合会長賞**

高園紘司郎（兵庫小２年）
池田美結（嘉瀬小４年）
水田明日香（東原庠舎中央校６年）
永石千洋（脊振中１年）
岸本佳子（唐津市）

寄せられた感想文を読む審査員＝佐賀市の佐賀新聞社

## 受賞おめでとうございます　日本ＰＴＡ全国協議会表彰

**優良ＰＴＡ文部科学大臣賞（団体）**
唐津市立平原小学校ＰＴＡ
伊万里市立大川内小学校育友会

**日本ＰＴＡ全国協議会会長賞（団体）**
嬉野市立五町田小学校ＰＴＡ
小城市立三日月小学校育友会

**日本ＰＴＡ全国協議会会長賞（個人）**
佐伯 美由紀　上戸 良太

**全国小・中学校ＰＴＡ広報紙コンクール入賞**
【日本ＰＴＡ全国協議会会長賞】
みやき町立中原小学校ＰＴＡ

**日本ＰＴＡ全国協議会会長賞（特別）**
園木 勝彦　古賀 善充　緒方 哲哉　亀井 容士乃　神近 純子
糸山 新一郎　山本 千絵　尾形 崇　辻 憲一郎
中園 吉信　陣内 謙太　廣 知徳　馬場 照夫

## 編集後記

編集委員長
瀬戸健太郎（鳥栖小）

本年度は年４回発行という変則的な態勢でしたが、大きな問題もなく発行することができました。発行回数は例年の３分の２しかありませんでしたが、編集委員13人と県Ｐ事務局が力を合わせることで、例年以上に読み応えのある紙面を実現できたと自負しています。

本年度で一番印象に残っているのはやはり、昨年10月に開催された「日本ＰＴＡ九州ブロック研究大会佐賀大会」です。10・11・12月号は特集号として制作しましたが、大会に参加されていない皆さまにも会場の様子や討議の雰囲気を伝えられたと思います。六つの分科会と全体会のすべてを取材することは大変でしたが、編集委員全員で協力し合い、乗り切ることができました。この経験は今後の県Ｐ新聞制作でも生かされていくと思います。

また災害時におけるＰＴＡの役割や不登校対策などの記事は、新聞編集委員会として問題意識を持ちながら取り組みました。編集委員の皆さんは慣れない取材で大変だったと思いますが、その苦労があった分、保護者目線のいい記事ができたのではないかと思います。本当にありがとうございました。

新年度からは年６回の隔月発行に戻ります。これまで以上に問題意識を持ち、読者の皆さまに必要とされる記事を掲載していきたいと思いますので、今後とも変わらぬご愛読をお願いします。

## 令和5年度 編集委員

〈副編集委員長〉平野 安希（大坪小）
溝口 和則（白石中）

〈編集委員〉原口 翔子（三根西小）
木下 真（神埼中）
羽根 佳子（金泉中）
西 真紀（小城中）
陣内 さおり（東原庠舎西渓校）
宮崎 葵（西唐津小）
藤丸 卓也（有田小）
中原 賢智（北方小）
三原 滋木（東部中）
山口 智恵子（吉田小中）

思考力　判断力　表現力

**子どもの学習に「新聞」が注目されています**

2020年度から、小学校、中学校、高校と順次、学習指導要領が改定され、授業やテストで課題となる「思考力」「判断力」「表現力」への対策が重要になります。さらに、小中学校で「道徳教育」が正式教科となり、成績がつけられるようになりました。こうした教育環境の変化を理解し、「良いこと、悪いことの判断力」や「自分の考えを伝える表現力」を身につけるため、家庭で子どもたちに何をしたらいいのかを一緒に考えましょう。

はじめよう新聞習慣

**毎日届く「学習教材」**
毎日「読む」「考える」習慣につながります

**家庭学習で「成績アップ」**
様々な記事で知識、読解力が身につきます

**広がる「興味」「関心」**
多彩な情報に触れ、親子の会話につながります

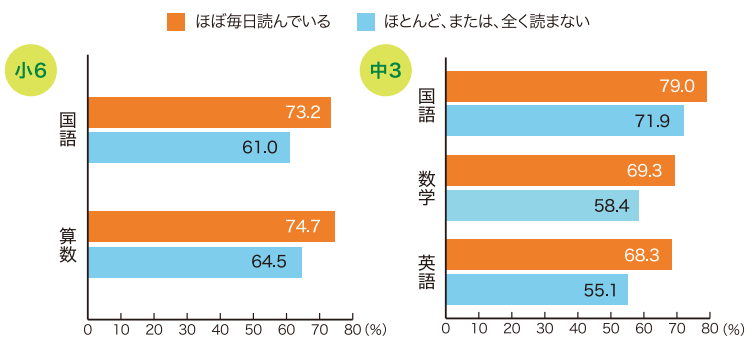
授業で使ってください　NIE SAGA　教育に新聞を

佐賀新聞社のウェブサイトで、学校の授業で使ってもらおうと毎日の新聞記事をもとに随時、教材を公開しています。ぜひご利用ください　佐賀新聞 NIE　検索

**新聞を読む子どもは学力が高い!!**

文部科学省が毎年実施している全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）で、新聞を読む児童・生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られました。新聞は勉強にも受験にも役立ちます！

「新聞を読んでいますか」への回答と各教科の平均正答率




※文部科学省「平成31年度全国学力・学習状況調査」調査結果から

佐賀新聞社販売局
佐賀新聞 試読紙キャンペーン実施中！
7日間無料でお届けします
購読・試読紙のお申し込みは
0120-0845-34

子育て・親育ち
# うちの家訓
子育てのヒントになるような、それぞれの「家訓」を紹介します。

## 田中家の家訓
### 毎日話し、成長感じる
田中 佑也（東原庠舎中央校P）

我が家は妻と子ども5人の7人家族です。賑やかなことはいいですが、毎日本当に色々なことが起こっています。仕事の日は子どもたちとゆっくり話をする時間をなかなか持てないのですが、我が家では「その日の出来事を毎日話す」ことを心掛けており、これが家訓かなと思っています。

学校であったことや、クラブでの様子、兄弟間での出来事などさまざまな話をします。暗い表情の時もあれば、目をキラキラ輝かせて話してくれる時もあって、面と向かって話をすると本当にいろんな事が伝わってきます。

子どもたちの考えを知り、成長を感じることができる素敵な時間なので、今後も継続してたくさんの話をする生活を送っていきたいと思います。

## 大石家の家訓
### 信じる力と称賛の言葉
大石 友和（基里中P）

我が家の家訓は二つあります。一つ目は「できる、できる、できると思えば必ずできる。できそうにないと思えることこそできると信じて私は努力する」。この言葉は、夢に向かって進む力強い原動力として、未知の道を切り拓いていく姿勢を大切にして欲しいという思いで、かれこれ30年ほどトイレに掲示しています。

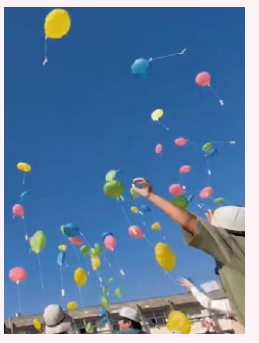
そしてもう一つが「陰で誰かの悪口は言わない。陰でこそ誰かの良いところを言おう」です。この言葉は私の中学時代の恩師がクラス便りに書いてくれた一文です。悪口ではなく、励ましと称賛の言葉を共有すると、互いに尊重し、温かく心地よい関係性をつくれますので、みんな優しく豊かな心を育んでくれています。

## いいね！ 単位PTA通信
### 空高くバルーンリリース
伊万里小育友会会長　岡本 聡士

伊万里小が創立150周年を迎え、私たちは子どもたちの思い出に残る瞬間をつくるため、全児童が関われるイベントを企画しました。当日は晴天に恵まれ、学校の広いグランドで総勢541人の児童と先生で「伊万里小」の人文字を制作。ドローンで無事に撮影ができ、いよいよバルーンリリースです！

約600個のバルーンにはヒマワリの種と子どもたちの思いを込めたメッセージを添えました。学校での思い出や好きなこと、将来の夢や希望について書いてくれました。

バルーンがみんなの手に渡り、いよいよリリースタイムです。子どもたちは、はしゃぎながら手にしたバルーンを全員の掛け声とともに空へ放ちました。一斉に空高く上昇していくバルーンの様子に子どもたちの喜びと感動が溢れ、子どもたちのキラキラした笑顔はとても印象的でした。



さらに感動は続きます。近くは隣町、遠くは長崎県島原市や熊本県宇土市から「バルーンが届き、幸せな気分になりました」との手紙が届き、このイベントに込めた「人と人がつながるきっかけになれたら嬉しい」という思いが通じた出来事でした。

今回のイベントを通じて、子どもたちは思いを表現する素晴らしい経験と想いがつながる感動的な体験ができたと思っています。これからも、学校・保護者・地域の皆さまとともに子どもたちの成長に寄り添いながら応援し、明るい未来を築いていくことを心から願っています。

## 父親日記 チチオヤニッキ
佐賀新聞社の教育担当記者がつづる、教育や子育てをテーマにしたコラムです

### vol.14 つまずき親子

子どもといると、自分の子どもの頃を思い出す時がある。小学5年で学ぶ算数の「割合」を、家庭で教えることになった。つまずいた記憶がある。「お父さんも苦手だったよ」と言いながら、娘の隣に座った。

「500ミリリットルのペットボトルが600ミリリットルに増量になりました。増えた割合を求めましょう」「5年3組の女子児童は12人で、クラスの4割です。全体の人数は何人でしょう」。今なら頭の中で瞬時に答えが出る。これを言葉や図にして伝える。

娘は自信をつけたのか、翌日、先生に父と一緒に勉強したことを伝えたという。すると、授業中に先生は娘を指名して出題。娘が出した答えは、あえなく不正解。娘にも、先生にも、申し訳ない気持ちになった。教えるって難しい。

その週末のテレビアニメ「サザエさん」。同じ小5のカツオがひどい点数のテストを持ち帰り、父の波平に「ばっかもーん」とあの調子で叱られていた。いつもは笑って見ている娘が、この時ばかりは「カツオみたいになるかも」。大丈夫。父ももう少し教え方を勉強してみるよ。

（佐賀新聞社　宮﨑 勝）


## 佐賀県PTA連合会推薦　小・中学生総合保障制度（こども総合保険）について

**お子様の「ケガ」「育英費用」やお子様とご家族の「個人賠償責任」などに備えられます。**

学校内はもちろん、放課後の遊戯中・クラブ活動中や休日のレジャー中の事故など様々なケガに備えられます。

他人にケガを負わせたり、他人のものを壊したりして法律上の損害賠償責任が生じた場合に備えられます。

**この制度の詳しい内容はこちらからも確認いただけます。**
『小・中学生総合保障制度』　https://www.pta-corin.com/

※保険商品の概要を説明したものです。詳細につきましては取扱代理店にお問い合せください。
○制度に関するお問い合わせ先：0120-228-553 佐賀県PTA連合会保障制度事務局（取扱代理店：株式会社コーリン）　受付時間：平日午前9時～午後5時（土・日・祝日、年末年始を除く。）
○制度引受保険会社：AIG損害保険株式会社　東京海上日動火災保険株式会社　損害保険ジャパン株式会社　Chubb損害保険株式会社　【令和5年度版：S-230450（2024-03）】